

フラッシュ・ラーニング・セミナーレポート



T. A (青森県・準会員)

7月5・6日、横浜市教育会館で行われたフラッシュ・ラーニング・セミナーについてレポートします。

第1回の今回は「本の診かた」ということで、一般の医学書から学び得る、身体を区切った考え方ではなく、身体＝「1つの生命体」として理解することで、症状が出る部位とはかけ離れた部位に有る治療ポイント、原因を局所ではなく全身に視野を広げて見つけるための考え方を講義していただきました。

生理学を柱として、緊張性頸反射、緊張性迷路反射、屈曲反射、足関節と身体バランスの件では、頸椎の変位と足関節背屈制限の関連性、腰仙部の動きの制限と足関節の動きの制限の診かた、人間を四足動物として考え、肩甲帯を骨盤に見立てて考えたり、相反神経支配と伸張反射を知り、腱反射を利用してROMを改善する方法や、痛みの発生、物質伝達など、振動覚について、下行性疼痛抑制系などの講義を2日間に渡ってしていただきました。

緊張性頸反射と緊張性迷路反射がごっちゃになって、練習ごとにモデルが変わるたびに確認しなければいけませんでした。頸椎の運動と足関節（距腿関節）の運動の関係を考えるときに、大変時間がかかりました。練習をしていると当然のことながら、教科書どおりにはいかないことばかりで、その時に「どうも反射とはあまり関係がないようだ」と気づくことができず、無理やり当てはめようとしていること自体、すでに視野が狭いなとつくづく感じました。

緊張性頸反射と緊張性迷路反射がごっちゃになって、練習ごとにモデルが変わるたびに確認しなければいけませんでした。頸椎の運動と足関節（距腿関節）の運動の関係を考えるときに、大変時間がかかりました。練習をしていると当然のことながら、教科書どおりにはいかないことばかりで、その時に「どうも反射とはあまり関係がないようだ」と気づくことができず、無理やり当てはめようとしていること自体、すでに視野が狭いなとつくづく感じました。

座位と立位で検査の結果が違ったり、頸部の治療をして足関節の動きが良くなったり、胸椎の治療で仙骨の靭帯が矯正されたり、理屈がわかれば「なるほど」と思うのですが、不思議の連続でした。

また、振動によって筋緊張を解く、触る、さするだけで痛みを鎮めると言うのも半信半疑な部分がありましたが、説明を聞いて納得しました。

一番の治療ポイント、原因を見つけるために、局所ではなく全身を診ることです。難しいです。荒木先生がデモをして下さった時、自分が「原因はこれかな？」と考えていた事とはおよそかけ離れた事を「あ、これだ」とおっしゃって、単純に「何で？」と勝手に思っていました。改めて、引き出しが少なすぎると感じました。もっともっと多くの知識を持って、引き出しを増やさなければいけません。また、これは普段から感じていることですが、「ひらめき」が乏しいというか、機転がきかないというか、何でも鵜呑みにしてしまっ、疑問を持つと言うことが苦手なので、それを克服していく必要があります。「本を診る」と言うのは、『知識を増やすために「読む」だけでなく「発想の転換」を常に考えながら読む』という意味でもあるのだらうと思いました。